
レンアイ ノ ヒトコマ 【ショート・ショート】

横森 RON

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レンアイノヒトコマ 【ショート・ショート】

【著者名】

横森 RON

【あらすじ】

恋愛の一場面を切り取つてみました。

(前書き)

執筆中の連載「変化の風、運命の車輪」とは全く関係ありません。
なんとなく書いてみました。

「あの時僕は君にキスをしたけれど、それが『好き』という感情から来た行動なのかはわからない」

学校の帰り道、寄り道をしたゲームセンターで手を繋げたとした私はオオツキ君が言った。

「やっぱり、僕と君はつりあわない。僕に君は似合わない。君に僕がそうであるように」

動かないゲームの、真っ黒い画面に映る私たち。

似合う？似合わない？

他の目を持たない私にはよくわからなかつた。画面の中に入る私のおなか辺りをじっとみて、彼は私と目を合わせないつもりだ。

「他の人を気にしないとダメなの？」

私は尋ねる。

「ダメだよ。僕らも他の人の一人なのだから」

ついにオオツキ君は歩き出してしまつた。私が隣にいないにも関わらず。

歩き出した彼を追いかけるけど、ビシしてか私たちの距離は埋まらなくて

車の前輪と後輪の関係のように一定の距離を取られたまま、私はオオツキ君を追いかけた。

「私はすうとオオツキ君のことが好きだつたんだよ」

最後まで取つて置いたセリフをぶつかると、彼は立ち止まつ、悲しそうに笑つて

「今言われても困るなア」

といつた。

そうか、『今』じゃなくて、むつと『前』から戻れるべきだつたんだね。

声にして、言葉にして、あなたにちやんと伝へるべきだつたんだね。

「今度から、ちやんと重つね。むづかしいやんといふね」

それでも君の悲しい笑顔は変らなくて、私は、もう君の隣にはいけないのかと悲しくなつて、でも彼にそれを教えてはいけない気がして、やっぱり、私も笑つた。

それはオオツキ君のような悲しい笑顔だつたとゆづ。

明日から、また『今度』をやり直そつ。

教室で彼に会つたなら、『おめでつ』から少しすりやつ直そつ。

明日会えなかつたら、明後日。

明後日会えなかつたら、その次。

9年や10年かかつても、夢のなかですり念えなくつても、いつかまた会えたときこ、私は『今度』をやり直そつ。

その時、君が幽霊になつていたとしても

私は『今度』をやつ直れい。
だから、そのときせわしゃんと私の皿を見てしまつた。

「じゅあな」

「ちゅうなひ」

また、『今度』

(後書き)

大概ケンヂさんをオマージュしております。

「んん？」と思うフレーズがあるかもしれません。

知ってる人は知っている、知らない人は…気付かないと思います。

アンニユイな雰囲気が伝われば大成功。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1080e/>

レンアイ ノ ヒトコマ 【ショート・ショート】

2010年12月13日21時24分発行